

令和7年度第4回相談支援従事者研修検討会 内容整理部会報告

部会員（高江洲・修理・古橋）

報告内容

1 今年度の取り組み内容・成果

○相談支援専門員役割紹介(行政向け「私たちが目指す相談支援専門員の姿」)の資料作成について

【内容】行政向け「私たちが目指す相談支援専門員の姿」の内容を確認し、名称を「相談支援専門員役割紹介」と決定した。説明会での説明文を作成した。

【成果】令和7年度の初任者研修の実習説明会で説明及び配布した。

○補助教材について

【内容】令和7年度は、初任者研修の内容が変更される予定だったため、ファシリテータ説明会の動画配信は中止した。演習指導者養成研修受講者向けの演習指導者養成研修初任コース1日目の動画配信は引き続き行った。

【成果】演習指導者養成研修受講者向けの動画配信については、初任者研修 FT アンケートの結果を確認し次年度の実施を検討する。その他の動画については、動画配信の必要性があった際に内容など検討していくこととなった。

○地域資源調べについて

・令和7年度の主任研修における地域資源調べについて、内容や項目を主任研修チームで検討されたものを承認した。令和8年度の現任研修と初任者研修は現行の内容を継続していく。

○共通事例について

・令和7年度の現任研修で共通事例を使用。令和8年度は現任研修部会で研修内容と共通事例の内容を検討してもらえるように依頼した。

2 次年度への引継ぎ事項

(1)相談支援専門員役割紹介の研修資料への反映方法について

・検討会委員や FT が使用してみて感想を集めていく。

➡いただいた意見はストックしておき、必要であれば5年程度でバージョンアップを検討する。

・経緯と意図を伝え各チーム(初任、現任、主任)に引き継ぐ

意図:

自分の立場と他者から見られる姿を確認し、役割を自覚する。

自己紹介や自身の振り返りに使用して欲しい。

説明文(再掲):

「この資料は、相談支援専門員の役割や活動を、行政職員の皆様やその他の支援関係者などに理解していただき、それを活用することで、地域課題の解決や障害者支援の現場で円滑な連携を図ることを目的としています。」

相談支援専門員は、障害当事者の希望と地域資源を結びつける役割を担っています。また、障害のある方一人ひとりのニーズが、地域全体のニーズでもあることを理解しています。

まずは地域実習で対応いただく行政職員の皆様にこの資料をご活用いただき、さらに拠点機関やその他の支援関係者など幅広く活用を広げることで、相談支援専門員の理解が広がることを期待しています。」

※R8 年度初任者研修より導入できるよう、各研修部会へ引き継ぐ

(2)繰り返し学ぶための動画配信(補助教材)について

- ・必要があればその都度検討を行なっていく。
- ・演習指導者養成研修受講者向けの動画については、初任者研修の FT アンケートの回答内容によって、行う必要があるか引き続き検討していく。

(3)地域資源調べについて

- ・資源調べ書式の見直しは、R9年度現任研修からの使用を目指し、検討していく。

3 他のチームから意見が欲しいこと

特に無し

令和7年度第4回相談支援従事者研修検討会 人材育成部会報告

部会員（稲垣・神作・辻・藤田）

報告内容

1 今年度の取り組み内容・成果

①【自治体・拠点機関実習対応者向けの実習説明会の検討】

実習説明会の改善

- ・ 初任者研修、現任研修それぞれの目的を整理して内容やポイントをわかりやすくまとめたものを、初任者研修、現任研修の地域実習の違いが比較して確認できるようにスライドを追加した。
- ・ 地域実習を行う上で、事前打ち合わせや振り返りを実施している自治体もあったことから、今後地域実習を行うための参考として他自治体の取り組みを知る機会として、それぞれ2自治体からの取組み紹介の時間を設けた。

☆ 例年、グループワーク(情報交換)になると退席してしまう参加者が多かったが、自治体からの取組み紹介に変更したことで、退席せずに最後まで参加していただくことができた。

初任研チームとの連携による実習前フォロー

- ・ 初任者研修受講者が地域実習へ行く際に不安が大きいことから研修 5 日目の発表時間を短縮して、実習に臨むにあたり、心構え等話ができる時間を作るため、初任研チームとも共有し、実習の意図を伝えるスライドを追加した。

②【ファシリテーター育成の検討】

- ・ ファシリテーターの力量に差があり、法定研修の構造や内容を理解していない方もいることから、ファシリテーター説明会で、ファシリテーションスキルの説明を追加した。FT アンケートから効果測定は難しかったが、FT のスキルを意識する機会にはなった。次年度も継続して実施する。

2 次年度への引継ぎ事項

①【自治体・拠点機関実習対応者向けの実習説明会の改善】

- ・ 実習対応者が現行の法定研修内容を理解していない場合があり、演習指導者養成研修は定員超過のため、代替りの手段としてせめて、実習説明会には出席してもらい、研修の意図を理解してもらえよう働きかける。区市町村窓口から拠点へ働きかけてもらえるようなアプローチができないか検討する。

②【ファシリテーター育成の検討】

- ・ ファシリテーター説明会でのファシリテーションスキル説明用のスライドを、人材育成部会で作成を行う。

- ・ 演習指導者養成研修受講者が実際に法定研修のファシリテーターを担う際に不安が大きいことから、フォローできる仕組みを検討する。FT 説明会時に演習指導者養成研修受講者を中心にフォローしてもらえよう、MF に働きかける。
- ・ 演習指導者養成研修受講者 FT への配慮として、MF が大幅に進行を変えるようなスライド変更がないように、今年度 MF が追加・変更したスライドの提供をお願いした。次年度はそのスライドをあらかじめ進行スライドに組み込んでおくことで、初めて FT を担う方の負担を軽減していく。
- ・ 初任者研修、現任研修のそれぞれの研修でのファシリテーターが初めての方へのフォローを、FT 説明会や当日の教室運営で MF を中心にお願いをする。

3 他のチームから意見が欲しいこと

特に無し

令和7年度第4回相談支援従事者研修検討会 サポーター部会報告

部会員(蛭川・芝・横田)

報告内容

1 今年度の取り組み内容・成果

○実施できたこと

◆サポーター参加の「目的」の整理

サポーターは、受講者が「本人中心の支援」の理解を深めてもらうために参加する。
グループの一員となり自身の生活や経験について語ることでリアルな感情を届ける。

◆導入する研修日程を検討→3日目

◆初任研の MF・FT にアンケートを実施し、導入にあたっての課題の抽出を実施

<不安要素> “不安”の記載→22/52

- ・現行の研修のタイトさ。
- ・時間管理に追われる内容ではサポーターさんをフォローしきれない。
- ・サポーターと関係を築けるかどうか
- ・サポーターの意識(想いが強すぎると進行に影響を与える)、疲労や負担への心配。

<意見> 不安はあるが好意的な意見→13/52

- ・サポーターを導入する理由を明確に伝える機会を(FT、サポーター双方に)
- ・顔合わせの機会や事前のレクチャーの機会があるとよい

◆サポーター候補者数について、関係団体へ聞き取り(プレ調査)を実施

- ・身体:10人、知的:25人、精神:40人、FT 推薦:24人ほど
- ・障害者ピアサポート研修の修了者へは未知数(被っている人は多そう)
- ・1日になると半数に→半日(11:00~16:00 くらい)の検討が良さそう

○残された課題

- ・サポーター導入に合わせた初任者研修内容の見直し(3・4日目)
- ・サポーター候補者の募集要件の調整(知的、精神、身体の障害に応じたワークへの参加の方法、焦点の絞り方)
- ・サポーターの役割(求めること)の明確化(制度への批判等に寄らない等)
- ・FT、サポーター双方への説明の機会(顔合わせ含め)の方法
- ・演習のプレ実施(3 障害当事者に参加してもらう)
- ・FTとの円滑な関係づくりのための、サポーター用プロフィール(配慮事項、得意なこと)の検討、協力者にも確認
- ・用語集の作成

2 次年度への引継ぎ事項

- ・「残された課題」全部。
- ・3日目の研修の中でサポーターさんの役割をはっきりさせる。
- ・サポーターの周知・募集方法について具体案を検討する。
- ・ファシリテーターやサポーターが安心して演習を進められるような方策を検討する。
- ・サポーターの導入が受講者にとって効果的な内容となるよう検討する。

3 他のチームから意見が欲しいこと

- ・特になし